

引野中学校だより 学力特集号

思いやりのところをもつ、自立した生徒の育成
～素直な心・笑顔のあいさつ・感謝の心～

令和元年 11月18日 北九州市立引野中学校 校長 諸藤 貴子

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

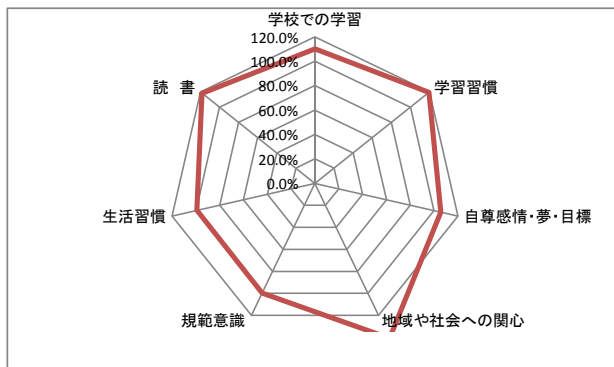
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・話すこと・聞くこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域は全国平均を上回っている。 ・日常的に、文章を読み取る力と自分の考えを文章で表す力を身に付けさせる。	同程度である
数学	・数学的な見方や考え方は、身に付いているが、数量や図形などについての知識・理解が不足している。 ・基礎的・基本的な知識を身に付け、記述式の問題に対応できるよう取り組む。	下回っている
英語	・読むこと・書くことは、全国平均を上回っているが、聞きとる力をつける必要がある。 ・選択式・短答式の問題は、全国平均を上回っているが、記述式の問題は、努力を要する。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業中に出される宿題に取り組むことで、知識・理解は身に付いてきた。身に付いてきた知識・理解を活用し、記述していく力を身に付けさせたい。そのために生徒が、主体的・協働的に考えを深め、広げ、課題解決ができる授業の改善に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各学年の発達段階に応じた体験学習を取り入れ、キャリア教育を推進していく。夢や目標を実現するために、自分の適性を考え、系統的に学習を進めていく。
・各教科等で学んだことが、将来の生活に活かされる指導を学校と家庭が協力して行う。自立にむかうところを育み実践力を身に付けるよう取り組む。